

( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

次の資料は、ある中学校の生徒 30 人の身長 (cm) です。この資料を「度数分布表」に整理して、資料をわかりやすくしましょう。

165.6 162.8 163.5 159.9 167.8 160.0 165.1 159.1 157.4 163.3  
 167.5 167.1 159.8 156.5 164.5 151.7 164.0 157.5 162.4 166.3  
 169.6 159.4 160.2 161.3 170.4 163.5 163.8 165.2 153.8 162.4

150cm 以上 154cm 未満を階級の 1 つとして、どの階級も幅が等しい度数分布表をつくると、下のようになります。

身長 (cm)	階級値	度数(人)	累積度数(人)
150 以上 154 未満	152		
□ ~ □	□	□	□
□ ~ □	□	□	□
□ ~ □	□	□	□
□ ~ □	□	□	□
□ ~ □	□	□	□
計		30	

(1) 上の表の空らんをうめなさい。

(2) 階級の幅を求めなさい。

(3) 度数が最も多い階級を求めなさい。

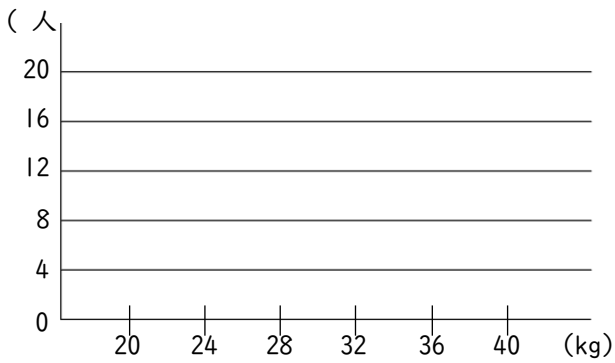
(4) 度数が最も少ない階級を求めなさい。

(5) 身長が 162cm 未満の人数は何人が求めなさい。

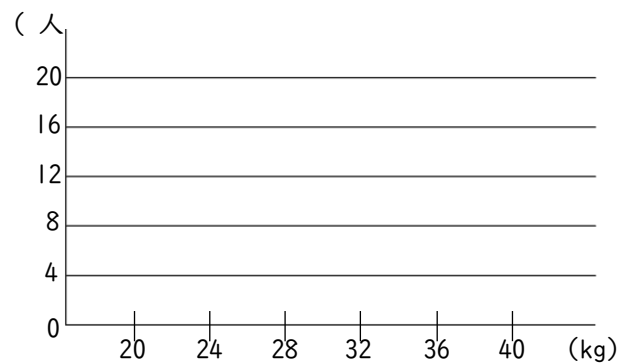
( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

ある中学校の生徒 50 人の握力について調べたところ、結果は右の度数分布表のようになりました。この度数分布表から、ヒストグラムと度数折れ線を、それぞれつくりなさい。

握力 (kg)	階級値	度数 (人)
20 以上 24 未満	22	6
24 ~ 28	26	10
28 ~ 32	30	18
32 ~ 36	34	12
36 ~ 40	38	4
計		50



ヒストグラム



度数折れ線



### データの分析と活用③ 相対度数

( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

A 中学校の生徒 30 人と B 中学校の生徒 200 人について、通学時間を調べたところ、次の度数分布表のようになりました。

A 中学校

通学時間(分)	度数(人)	相対度数
10 以上 20 未満	15	
20~30	9	
30~40	6	
計	30	

B 中学校

通学時間(分)	度数(人)	相対度数
10 以上 20 未満	120	
20~30	48	
30~40	32	
計	200	

(1) A 中学校, B 中学校において、相対度数を求め、上の表の空らんをうめなさい。

(2) 通学時間が 10 分以上 20 分未満の生徒の割合が多いのは、A 中学校と B 中学校のどちらですか。

(3) 通学時間が 20 分以上 30 分未満の生徒の割合が多いのは、A 中学校と B 中学校のどちらですか。

(4) 通学時間が 30 分以上 40 分未満の生徒の割合が多いのは、A 中学校と B 中学校のどちらですか。

( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

空らんにあてはまる値を書き入れなさい。

- (1) 【範囲 (レンジ)】データの最大の値と最小の値の差を、分布の範囲 (または「レンジ」といいます。) 範囲 = 最大値 - 最小値

【データ】			
42	31	26	28

上のデータの範囲は,  となります。

- (2) 【中央値 (メジアン)】データの値を大きさの順に並べたとき, その中央の値を中央値 (または「メジアン」といいます。データの総数が偶数のときは, 中央にある2つの値の平均値を中央値とします。

【データ1】(データの総数が偶数)			
20	30	40	50

【データ2】(データの総数が奇数)		
20	30	40

データ1の中央値は , データ2の中央値は  となります。

- (3) 【最頻値 (モード)】データの値の中で, 最も多く現れる値を最頻値 (または「モード」といいます。

【データ】				
4	3	4	4	2

上のデータ的最頻値は,  となります。

- (4) 【平均値】平均のこと。データの値として表現するときは平均値といいます。

$$\text{平均値} = \frac{\text{データの個々の値の合計}}{\text{データの個数}}$$

【データ】		
40	30	20

上のデータの平均値は,  となります。